

これからもっと  
**富裕層**  
になるための  
ファンド選び

## 金融危機時の 資産形成法 4

雑誌 SEVEN HILLS での連載開始以来、大きな反響が続く上中康司氏による「もっと富裕層になるためのファンド選び」がついに WEB サイトにも登場し、今回で 2 回目となりました。

### 眠れる鉱物資源の宝庫、カンボジアの鉱山への投資とは



上中康司氏

1962 年生まれ。88 年年、神戸大学大学院工学研究科修了後、日本債券信用銀行入行。その後、シティバンク、クレディスイスファーストボストン証券、住友キャピタル証券、日本インベスターズ証券を経て、2000 年、エルエードットコム株式会社設立。02 年、社名をエフエーストック株式会社に変更

以前より、金融危機時の資産形成法として、あちらこちらに散らばっている投資資産を現金化したうえで、円高、株安で、異常な水準まで売りたたかれた株に集中投資することをお勧めしてきました。そして、その対象として、オーストラリアの小型資源株（ジュニアマイニング）への投資を紹介しました。鉱山株は、地下に埋蔵されている鉱物資源が実物資産として、この会社への投資を担保してくれます。また、株価は、コモディティ価格の急落で、大きく売りたたかれ、豪ドルの対円価格も 60 円台前半となっており、円からの新規投資は、大変有利な投資であることを説明しました。

さて、今回もこの考え方ですが、オーストラリアの鉱山とは、投資手法が異なりますが、カンボジアの鉱山への投資を紹介します。

カンボジアは、眠れる鉱物資源がたくさんあります。金、銀などの貴金属、鉄、銅、アルミ、鉛などのベースメタル、チタン、モリブデンなどのレアメタル、石炭、石油などのエネルギー資源、ルビーサファイアなどの宝石、その他、セメント材料の石灰岩、肥料のリン鉱石まであります。ところが、現在、試掘されているのは、海洋油田と北東部の山岳地帯にあるアルミニウムだけです。カンボジアには、これら資源を採掘するための技術も資金もないのです。結果として、外国の技術と資本に頼ることになります。

現在、韓国、中国、ロシアなおどの会社が鉱区の調査権を獲得して、調査を開始しています。日本の会社はまだ来ていません。カンボジア政府は、日本の技術、資本を歓迎しているのに、まだ、商社も、鉱山会社も来ていないのです。また、銀行もカンボジアの開発案件への融資は出来ないようです。資源に乏しい日本にとっては、ビッグチャンスであるにもかかわらず、大変残念なことです。腰が引けてしまっています。一方、対照的に、韓国は、国をあげて、積極的にカンボジアの鉱山開発にかかわっています。

今回、私は、カンボジア首相補佐官、兼、鉱物資源エネルギー省の次官であるサット・サミー氏と直接会って、私のオーストラリアの資源投資会社、JINJI RESOURCES（ジンジ・リソース）社のカンボジアの鉱区獲得交渉を行いました。

交渉をセッティングしてくれたのは、JANAKA JAPAN（ジャナカジャパン）という会社（住所：神戸市中央区八幡通3丁目2-5、代表メール：info@janaca.net）で、代表の中嶋氏は、過去10年間に渡って、カンボジアへの日本の技術紹介、学校設立、分化交流などを通して、カンボジアの経済発展、文化発展に大きく貢献してきた人物です。サット・サミー氏からも絶大な信頼を得ています。因みに、私も、JANAKA JAPANの顧問をしています。

鉱区の獲得交渉は、2日にわたり、計4時間行いました。そして、結果、かなり有利な条件を引き出すことに成功しました。先方の回答は、「カンボジアのどの鉱山の鉱区も、他者が調査権を持っている鉱区以外は、調査権を与える」という内容です。私のオーストラリアでの鉱山投資の実績を認めてくれたようです。

カンボジアの場合、オーストラリアと違って、埋蔵されている鉱物の種類や埋蔵量の詳しい公的なデータがほとんどありません。自ら、鉱区に行って、調査をし、鉱区を申請し、認可を得てからから、自分で鉱山を試掘し、商業生産にこぎ着けるしかないのです。

調査は、空港も道もありませんから、ヘリコプターをチャーターして現地まで行くことになります。もちろん、道路、鉄道、港湾などのインフラもほとんどないので、商業生産するには、自分たちで資本を呼び込んで、建設するしかありません。鉱区の獲得はカンボジア政府からの長期リースの形をとります。2月に、私は、調査チームを組成して、申請予定の鉱区を調査するつもりです。幸い、カンボジア陸軍のヘリが飛んでくれることになり、また、護衛で陸軍の軍隊が何人か付いてくれることになりました。

このような状態での鉱区の獲得ですから、オーストラリアに比べて、資源発見の成功確率は低くなりますが、その分、広大な、多くの鉱区を安い値段で手に入れることが出来るのです。また、資源価格の急落面での交渉ですから、強気で臨めます。また、カンボジアでの決済通貨は米ドルですから、日本からの投資は1ドル90円の円高のメリットもとることができます。

今回、私は、金、レアメタル、石灰岩などの複数の鉱区を獲得するつもりです。

今後、資源価格が反転したときは、これらの鉱区に埋蔵されている鉱物は莫大な含み益を生むことになります。つまり、JINJI RESOURCES社の含み資産は膨大なものになるのです。その含み益を生かして、ファイナンスして、商業生産を行えば、巨利を得られるかもしれません。